

愛 知 県 知 事 殿

豊明市長 小浮 正典

検証実施報告書

令和 6 年 8 月 21 日付け 6 災対第 471-2 号で事業を決定された後、貸与された
テントを用いて検証を実施しましたので、令和 6 年度ペット同行避難対策事業実施
要領第 9 の規定に基づき、下記のとおり提出します。

記

実施日	令和 7 年 1 月 24 日(金)
実施場所	豊明市共生交流プラザ カラット
内容	1 参加者 犬 5 組、猫 3 組(市職員) 防災防犯対策課職員、環境課職員 カラット避難所開設職員、カラット職員 見学者(区長、自主防災組織連合会理事、県内自治体職員、愛知県職員) 2 検証方法 同室避難を行い、その中でペット用テントを使用して検証を行った。 3 検証項目(利点、評価点、苦慮した点などを記載してください。) (1)温度、明るさ、臭気、騒音 やや臭いがこもるという意見があったが、日常生活を過ごすことができる明るさや温度で、周囲への鳴き声も軽減できた。 (2)逸走の可能性 犬は問題ないが、猫の場合下の際間から抜け出してしまう可能性があるという意見があった。そのため、養生テープ等で固定して隙間をなくす外、テントの中でもケージに入れて飼育することで逸走を防止することができる。 (3)仕様の過不足 (テント生地の厚さについて) ペットによる引っかきなどに耐えうる厚さであった。 (テントの色について) 色による影響は特にはないと思われる。

	(入口の大きさについて) ペットの脱走を防止するために最低限の大きさが確保されていた。 (中仕切りネットの構造について) 出入口が開いている場合、ネットをかきわけて脱走してしまう可能性があるため、ネットがあったとしても出入口は閉めておく必要がある。 (窓の大きさ、位置について) 外から勝手に開けられてしまう構造のため、気になったという意見があったが、その他特筆すべき内容はなかった。 (4)付属が望ましい仕様 ペット用テント足る所以として、一般のテントに無い部分で床面や出入口のネットの付属が主と思料。そのためそれら以外の部分は一般のテントと同様の機能があれば問題なく、通気口や壁面のペットイラストのデザイン等は不要である。 (5)設置場所 屋内に設置して使用した。現状 2 基しかないため、共通で利用できるテントにするなど、運用を考えて配置を工夫する必要がある。 (6)事務手続き 特になし。 4 総評(効果的であるか、問題点は何か、それらに対する改善案など) ペットに特化したテントであるため、ペットにとっては落ち着いた空間になっていたが、猫の場合は、テント内で解放すると隙間から脱走する可能性が考えられた。 ファミリールームと比較すると、脱走する可能性は低く、ペットや飼い主にとっても落ち着いた空間となっていた。しかしながら、手配の面で考えるとファミリールームはもともと市でも備蓄しており、価格的にもテントよりは安価であるため、同室避難スペースを拡大していく際は、ファミリールームの使用をベースにレイアウト等を考える方が現実的である。 機能面よりも運用を工夫する必要がある、テントの使用は先着順なのかなど、誰が使用できるかが課題となる。体育館の赤ちゃんテントなど、ペットに限らず共用で利用できるスペースとすることも一つの運用方法と思われる。
--	--

※ 検証の様子が分かる写真を添付すること。

※ 関係機関との協議書、改訂した避難所運営マニュアルなど、事業により作成された成果物を添付すること。

